

平成30年3月30日

草津市議会議長
瀬川 裕海 様

市民派クラブ
会 長 奥村 恭弘

草津市議会 市民派クラブの平成29年度政務活動費実施研修(会派研修)の結果について、
下記のとおり報告(復命)書を提出いたします。

記

1 期 間 平成30年3月29日(木)～3月30日(金)

2 視察先および調査事項

(1) 3月29日(木)

- 10時00分～11時00分 PowerLab…STEAM教育・シチズンシップ教育について
- 11時20分～13時00分 道の駅しょうなん・野菜レストラン SHONAN
- 13時00分～15時00分 UDCK(柏の葉アーバンデザインセンター)、柏の葉スマートシティ、東京大学柏キャンパス…スマートシティについて
- 15時30分～18時00分 PowerLab…STEAM教育・シチズンシップ教育について

(2) 3月30日(金)

- 10時00分～12時00分 認定 NPO 法人ブリッジフォースマイル…児童養護施設
の子どもたちの自立支援プログラムについて
- 12時00分～13時00分 滋賀県アンテナショップここ滋賀

3 参加者 八木良人

4 報告書・資料 別紙のとおり

平成 30 年 3 月 30 日
草津市議会市民派クラブ
八木 良人

視察研修報告書

【日 程】

3 月 29 日 (木)

午前 10 時~11 時	PowerLab 「サス・ゲー」 視察
午前 11 時 20 分~午後 1 時	道の駅しょうなん・野菜レストラン SHONAN 視察
午後 1 時~1 時 45 分	UDCK (柏の葉アーバンデザインセンター) 視察
午後 1 時 45 分~午後 2 時 45 分	柏の葉スマートシティ視察
午後 2 時 45 分~午後 3 時	東京大学千葉キャンパス視察
午後 3 時 30 分~午後 6 時	PowerLab 「サス・ゲー」 視察

3 月 30 日 (金)

午前 10 時~12 時	ブリッジフォースマイル視察
12 時~午後 1 時	ここ滋賀視察

【研修地】

千葉県柏市・東京都

【目 的】

柏市

- PowerLab における S T E A M 教育・シチズンシップ教育の視察研修
(PowerLab 代表・宮島衣瑛)
 - サスゲーとは、Minecraft という箱庭型ゲームで遊んでいるうちに気づいたら SDGs の各内容が体験できることを目標に開発したゲームで、小学校高学年から中学生を対象にしています。このゲームを通して子どもたちは国同士のやりとりはもちろんのこと、世界を発展させるためにはどうすればよいかを学びます。このプログラムの草津市での実施に向けた研修。
- 道の駅しょうなん・野菜レストラン SHONAN 視察
(柏市役所 都市整備課・石名坂賢一)
 - 手賀沼再生にともなう周辺整備について視察し、全国トップクラスの売り上げを誇る道の駅しょうなんの農産物直売所と地元農家の方が運営されている野菜レストラン SHONAN の視察。草津市の道の駅や草津川跡地公園での農産物直売や地産地消レストランの可能性を検討する。
- 柏の葉スマートシティ視察研修
(柏市役所 都市整備課・石名坂賢一、UDCK 副センター長)

- 柏の葉キャンパス駅前に開発がすすむ柏の葉スマートシティ視察研修をおこない、草津市におけるUDCBKによるまちづくりの参考にするとともに、近未来型のまちづくりを学ぶ。
- ブリッジフォースマイル視察
(認定NPO法人ブリッジフォースマイル代表・林恵子)
- 児童養護施設の子どもたちの自立に向けたさまざまなプログラムについて研究し、草津市や広域行政においての取り組みを検討する。
- ここ滋賀視察
- 滋賀県のアンテナショップ「ここ滋賀」の視察

PowerLabⁱにおけるSTEAM教育・シチズンシップ教育の視察研修

PowerLab では、STEAM 教育ⁱⁱ×シチズンシップ教育をコンセプトにしています

現実社会の課題を教材とし、その課題を解決するための活動を通して学んでいきます。失敗を恐れず、自由に発想し、アイデアを形にし、試行錯誤を繰り返すデザイン思考を身につけていきます。数国社理といった教科を横断し、学年も超えて学び合います。

少子高齢化・気候変動・グローバル化・人間の知能を越える人工知能など、社会は常に激変しています。今の小学生が大人になった頃には、いま存在しない職業についているだろうと言われています。これからの社会に生きる子どもたちに求められるのは、正解のない課題に辛抱強く向き合い、他者と協力し、新たな価値を創造していく力です。自ら学び続ける意欲と習慣、課題を発見できる視点、そして社会に働きかけていく「市民性（シチズンシップ）」が重要になってきます。PowerLab は、未来を生きるために必要な力を育てていく新しい学びの場です。

その一環としてマイクラフトを活用したサス・ゲー（サスティナブル・ゲーム）という取り組みをおこなっており、そのプログラムの研修視察を実施してまいりました。

サス・ゲーについて

サスゲーでは、Minecraft ワールドの中にポテスタ（超大国：アメリカをイメージ）、ホルン（資源国：サウジアラビア）、ミチシオン（新興国：中国）、アレテ（中立国：ヨーロッパ）と呼ばれる 4 つの国が作られています。プレイヤーはそれぞれの国の大統領や外務大臣になり、自分たちの国を発展させること・世界全体が発展することを考えて、ゲームを行います。



サスゲーのゴールは、各国に与えられたミッションを 6 年間（30 分を 1 年とする）で達成しつつ、すべての国が初年度以上の人口を維持していることです。このミッションこそが、SDGs の内容と合致しています。例えば、ミチシオン国に与えられたミッションは【自国内に緑を増やす】ことです。ミチシオンは砂漠の国なので、緑を増やすためには各国と貿易をしなければなりません。しかし、ミッションを達成するときに自国の環境を破壊したり、国民に無理をさせてはいけません。洪水が起こったり、テロが起こる可能性があります、

それ以外にも、毎年「国連」にエネルギーと食料を国連分担金として納入しなければなりません。納入量が規定値に達しない場合には、それに応じて人口が減っていきます。各国は人口を維持するためお互いに条約を締結し物資のやりとりなどを行います。サスゲーでは、自分たちの国だけが発展するのではなく、世界全体が発展していくための仕組みを子どもたち自身で考えなければなりません。

6 年間の任期が終わったあとは、みんなで振り返りを行います。自分たちがやってきたことは良かったのか、それとも悪かったのか。どんなところが良く、どうすればよかったのか。人口の増減や食料自給率の

データを元に、自分たちで話し合います。そして、今度は現実の世界でどんなことができるのかを考えます。サスゲーで最も大切な時間と言えるでしょう。

考察

子どもたちはマイクラフトⁱⁱⁱというゲームをとおして仮想世界の主人公となりすすめていきますが、課題ミッションは現実世界で起きていることとリンクしており、ゲームを通して、人口問題・資源問題・先進国・発展途上国・国家間紛争問題などを体験しながら、問題解決は話し合いで行っていくという仕組みになっており、子ども達の成長に大きな可能性をもたらすプログラムだと感じました。この取り組みは草津市においても十分に実施可能なものなので、プログラミング教育と連携しながら導入できる道筋を検討していきたいと思います。

道の駅しょうなん・野菜レストラン SHONAN 視察

手賀沼は 1955 年（昭和 30 年）頃まではうなぎなどの漁獲がある清澄な沼であったが、高度経済成長による周辺の都市化に伴い、手賀沼に注ぐ大堀川、大津川に生活排水や産業排水が流された結果、沼の水質汚濁は全国有数となった。

化学的酸素要求量（COD）の年平均で見ると 1974 年（昭和 49 年）から 2001 年（平成 13 年）までの 27 年間連続で全国の湖沼でワースト 1 に甘んじていたが、各種の水質対策や、北千葉導水路の完成もあって、1990 年代までのような猛烈な汚濁レベル（COD 年平均 20mg/l 台）からは改善している。

その手賀沼周辺において、道の駅しょうなんを拠点として市民の憩いの場としての様々な取り組みが行われています。

道の駅しょうなん^{iv}の地元野菜の直売所では、商品管理

に ICT を活用して、開店時から閉店時までいつ訪れても豊富な商品が並んでおり、1 日中賑わいを創出しています。具体的には、商品の売れ行きがリアルタイムで集計されてその結果が生産者へメール配信する仕組みが整っており、在庫が減ってくると生産者の方が直接商品補充に向かうという仕組みになっています。生産者の方にとっても、どのような農産物や商品（6 次産業化）がいつ売れるのかや販売動向が把握でき、より効率的な生産活動ができます。象徴的な商品のひとつに農家の方が手作りの赤飯・かやくご飯系の商品が、リアルタイム売り上げシステムにより生産効率があがり、いつ訪れても品切れしていないことで、年間売り上げが 5 0 0 0 万円を超えたという実績があるようです。



隣接している野菜レストラン SHONAN^vでは、地元農家の方々が地元食材を様々な形の料理として提供されており、メニュー開発も毎月更新され工夫することで、平日でも常に多くのお客さんと賑わっています。



考察

地元野菜を単に販売するだけではなく、ICT による商品管理により全国トップクラスの売り上げにまで伸ばしている点は、大いに参考になります。いつ何時に行っても豊富な商品があることで集客力はそれまでの数倍になっているそうです。このような工夫が大事です。地元の生産者の方も効率よく生産と販売が

可能になり、儲けることが持続発展につながっていました。

野菜レストランも、地元産を使うだけではなく、生産者の方がメニュー開発や調理に関わることでより素材を活かすことができています。草津川跡地公園や道の駅においても、このような地元の方々を巻き込むとともに ICT を活用した効率のいい経営に取り組むことが持続発展には必要だと感じました。

柏の葉スマートシティ視察研修

東京大学や千葉大学がキャンパスを構える柏の葉キャンパス駅では、環境未来都市構想にもとづくまちづくりが行われています。その中心となるのが公民学の連携によるまちづくりです。

公民学連携の街づくり拠点として「柏の葉アーバンデザインセンター」が設立され、公民学のメンバーが立場や組織を越えて自由闊達な議論をしながらまちづくりを実践する仕組みがとられています。東京大学や千葉大学との包括連携協定も締結し、柏の葉国際キャンパス構想^{vi}を構築して取り組んでいます。

公民学連携による自律した都市経営を3つの基本コンセプトから実践されています。その3つとは、スマートシティ（効率的な地域エネルギー運営）、健康長寿都市（高齢者の社会参画・ICTを活かしたモビリティ環境）、新産業創造都市（技術力を活かした新産業創造の国際的環境）であり、すべてのまちづくりがこの構想をベースに進められています。



考察

新しいまちづくりの理想的な形を実現しようとしている印象を受けました。アーバンデザインセンターを拠点として組織立場を越えた自由闊達な議論によって、ベースとなる構想をまとめあげ、その構想の基づいて街づくりを数多くの実証実験を行いながらすすめておられます。担当者の方のお話では、かなりの多くの失敗があるとのことで、その失敗があるからこそ今のまちづくりもできているとのことでした。アーバンデザインセンターには行政からの管理や指示命令は一切なく、公民学の多



様性のある意見を尊重してきたこともこれまでの成果の要因になっていると感じます。一般的に行政が中心に行うことには失敗しないよという意識が強くなり、先進的な挑戦ができないという弱点がありますが、柏の葉はその課題を解決してまちづくりが行われているようです。アーバンデザインセンターがいち早く法人化して独立性の高いものになっていることも大きな要因であると確信しました。草津市においてもUDCBKの行政からの独立を急ぐ必要性を強く感じたところです。

ブリッジフォースマイル視察

認定NPO法人ブリッジフォースマイル^{vii}とは

子どもたちがどんな環境で生まれ育っても、夢と希望を持って笑顔で暮らせる社会を目指し、児童養護施設から社会に巣立つ子どもたちが「自分の努力と周りの人の支えがあれば、自分のハンディキャップは乗り越えられる。失敗してもやり直せばいい」と、勇気を持てるような支援をカタチにする活動をしている団体になります。

主には、児童養護施設の子どもたちへの就労支援のための自立支援プログラムを運営されています。12歳から25歳くらいまでを対象として、巣立ちプロジェクト（一人暮らしセミナー）、アトモセミナー（退所後の孤立防止）、自立ナビゲーション（退所後のマンツーマンサポート）、施設への出張セミナー、カナエール（スピーチコンテストで資金と意欲を支援する奨学金プログラム）ジョブプラクティス（1日職業体験）、就労体験インターンシップ、職業紹介、よこはまPort For（入所中・退所後の気軽に立ち寄れる居場所づくり）

これらの活動を多くの企業からの支援を得ながら、行政からの委託事業としても実施されています。2016年からは佐賀県と協力して、佐賀県に事務所を開設し、地域間格差の解消に向けた取り組みもスタートしています。



考察

児童養護施設から突然社会に出て行かざるを得ない現状については、かねてから問題意識を持っていましたが、退所する前に社会で自立するための様々なプログラムを実践されているブリッジフォースマイルの活動には感動しました。本来は、行政がこのような弱者のサポートを全面的にしなければいけないと考えますが、現状ほとんどできていません。草津市においても、このような退所後問題は多く発生していると思いますが、現状把握すら不十分な状況だと感じています。守山市には、四つ葉のクローバーという退所後の受け入れ施設があり、多くの子どもたちが大学に通ったり、就職して自立するまですごしています。草津市においても、このような弱者対策こそ力をいれなければ行けないことだと考え、今後このような取り組みができないかどうかを草津市とともに検討していきたいと考えます。

滋賀県アンテナショップ ここ滋賀

滋賀県が東京都の日本橋にオープンしたここ滋賀^{viii}を視察しました。滋賀県各地から多くの商品が集められており、ここに来れば滋賀県全体の様子がわかります。2Fレストランでは、滋賀県産の食材を使った季節のお料理が提供されており、昼食時には多くのお客さんで満席になっていました。

いろいろな地域からの商品がありましたが、草津市の商品は若干少ないように思いました。今後は、草津市からも売れる商品をさらに多く提供できるよう、農産物や加工商品や工芸品の充実に力を入れていかなければならないと感じました。

このようなショップは、滋賀県内にも展開してもいいのではないかと、草津市は人口の半数以上が他府県からの流入者であり、その意味から、このようなアンテナショップは滋賀県の良さを感じ、そのことで草津市にも誇りを持つことができるきっかけになると思います。今後、草津市にも是非ここ滋賀の出店をお願いしていきたいと思っています。



-
- i <http://innovation-power.xyz/powerlab/susgame/> [Noblesse Oblige](#) 千葉県柏市東上町 2-28 第一水戸屋ビル 3F 代表・宮島衣瑛
- ii Science (科学)、Technology (技術)、Engineering (工学)、Mathematics (数学) を統合的に学習する「STEM 教育 (ステムきょういく)」に、Art (芸術) を加えて提唱された教育手法
- iii <https://ja.wikipedia.org/wiki/Minecraft> マインクラフトについて
- iv <http://www.shonanyasai.com/> 道の駅しょうなん
- v <http://www.city.kashiwa.lg.jp/soshiki/bloghakunchu2/p041038.html> 野菜レストラン SHONAN
- vi 柏の葉国際キャンパス構想 <http://www.city.kashiwa.lg.jp/soshiki/020100/ct2004.html>
<http://www.city.kashiwa.lg.jp/kashiwanoha/>
- vii 認定NPO法人ブリッジフォースマイル <https://www.b4s.jp/>
- viii ここ滋賀 <https://cocoshiga.jp/>